

映画「世界が食べられなくなる日」で紹介されているラットの実験と
遺伝子組み換え作物の安全性について

バイオテック情報普及会

私どもバイオテック情報普及会は「遺伝子組み換え技術などのバイオテクノロジーに関する
事実に基づく情報および科学的な情報」を提供・発信している任意団体です。

「世界が食べられなくなる日」（監督：ジャン＝ポール・ジョー）と題する映画が6月から
日本で一般公開される予定で、試写会も既に始まっています。

この映画は、2012年9月にフランス Caen 大学教授のセラリーニ博士らの研究グループ
が「ラットに遺伝子組み換えトウモロコシを与えた動物試験で、腫瘍が発生するなど異常
が見られた」として発表した試験結果を紹介しています。しかしながら、この動物試験に
ついては、すでに日本やEUも含めた多くの公的な安全性審査機関、毒性学の専門家等
によって、その方法と結論の科学的妥当性が否定されています。以下に、それらの詳細と遺
伝子組み換え作物の安全性評価について記しましたので、是非ご一読ください。

- 内閣府食品安全委員会（日本）2012年11月12日
「基本的な試験デザインを欠いており、安全性を再評価する必要性を示唆する知見とは
なり得ない、改めて食品安全委員会として食品健康影響評価を行う必要はない」
<http://www.fsc.go.jp/fscis/attachedFile/download?retrieveId=kai20121112sfc&fileId=540>
- 欧州食品安全機関（EFSA） 2012年10月4日
「研究の計画法、報告及び分析が不適切で、科学的に健全な結論とみなし得ず、EFSA
がこれまで行ってきた遺伝子組み換えトウモロコシの安全性評価を見直す必要性はな
い」
<http://www.efsa.europa.eu/en/press/news/121004.htm>
- 日本の毒性学の専門家である、青山博昭博士（一般財団法人残留農薬研究所毒性部長）
2012年10月10日
「動物試験の条件や設計に大きな不備があり、得られた結果を論理的に解釈することも、
それらの結果に基づいて遺伝子組み換えトウモロコシの安全性を科学的に議論すること
もできない」
https://sites.google.com/site/fsinetwork/jouhou/gm_maize
- 世界中の科学者および専門家からの動物試験を疑問視するコメント
http://www.cbijapan.com/siryuu/DL/20121025/List_of_quote_Jap.pdf
(海外報道からの引用まとめ)

遺伝子組み換え作物の安全性評価は国際基準に基づいて、各国が安全性評価を確立しています。日本では法律で食品、飼料としての安全性並びに環境への安全性（生物多様性への安全性）を評価し、安全性が確認されたものだけが市場に流通することになっています。食品の安全性評価は食品安全委員会が、飼料の安全性評価は農林水産省が、環境の安全性評価は農林水産省・環境省が、責任を持って行っています。この安全性評価には、様々な分野の専門家が携わり、実施されています。食品としての安全性評価においては、遺伝子組み換え作物に導入された遺伝子と、その遺伝子を作る（発現する）タンパク質は、胃や腸で速やかに消化・分解される結果、体内に蓄積して慢性的や長期的な毒性を示すことはなく、またアレルギーの原因にもならないこと等を確認しています。

遺伝子組み換え作物は、**1996年**に初めて商品化されて以来、世界中で栽培、利用されています。日本は遺伝子組み換え作物の輸入大国で、推定値で年間**1,600～1,700万トン**（日本のコメ生産量の約**2倍**）の遺伝子組み換え作物が輸入されています。その用途は、食用油や油を使用した加工食品、飲料の甘味料など様々な食品、および食肉・卵・乳製品にかかわる家畜の飼料です。このように遺伝子組み換え作物は日本の食卓にとって欠かせない物になっています。また、食品として**17年**間に亘り、日本を含め世界各国で利用されていますが、健康被害など、安全性に関する問題は一切報告されていません。

セラリーニ博士の実験や遺伝子組み換え作物の安全性等に関連する記事を書かれる際には、上記の情報をぜひご参照いただければと存じます。宜しく願いいたします。

本件に関する問い合わせ先
バイテク情報普及会事務局 鈴木
TEL 03-6721-8725
masahiro.suzuki@cbijapan.com
<https://www.cbijapan.com/>